

PRAEVIDENTIA DAILY (8月14日)

昨日までの世界：BoE タカ派度大幅後退でポンドブルー一旦撤収

昨日は、英雇用統計および BoE 四半期インフレ報告を受けたポンド安が顕著だった。英雇用統計では、失業率は 6.4%へ低下したが予想通りで、むしろ雇用者数の伸びが+16.7 万人と前期および市場予想を下回ったほか、BoE が最近注目度を高めていた週平均賃金（総合）が前年比-0.2%と市場予想を下回り、2009 年以来のマイナスとなったことが嫌気された。更にその後発表された BoE 四半期インフレ報告が想定よりもハト派的な内容で、賃金上昇率が特に弱いことを指摘しただけでなく、経済のスラックの判断において賃金と単位労働コストを特に重視する、と述べ、週平均賃金上昇率予測を 2014 年 4Q について+2.5%から+1.25%へ、2015 年 4Q について+3.5%から+3.25%へ前回 5 月分から引き下げた。これを受けて、市場では年内利上げ観測が大きく後退し、英 2 年債利回りは 0.71%と 6 月 12 日の Carney 総裁発言(利上げは市場が織り込んでいより早く起きる可能性)以前の水準に逆戻りし、ポンドは対ドルで 1.6686 ドルと今年 4 月半ば以来の水準へ急落した。BoE がゼロ近傍で推移する賃金重視姿勢を明確にしたことから、早期利上げの可能性はかなり後退したため、ポンド強気見通しは一旦保留した方がいいだろう。今後の英利上げ開始時期を巡っては、成長率、失業率、インフレ率や住宅価格ではなく、週平均賃金がまずは年末までに BoE の 2014 年 4Q 予測である+1.25%にどこまで近づけるかが最大の注目となる。

その他主要通貨では、豪ドルと NZ ドルが堅調に推移した。中国主要経済指標では新規人民元建て融資、固定資産投資、鉱工業生産、小売売上高のいずれも市場予想を若干下回る悪い内容だったが下落は限定的で、むしろ米小売売上高の予想比下振れ（総合 0.0%、コア 0.1%）を受けた米長期債利回りの低下、米株価の上昇が豪ドルや NZ ドルの対米ドル相場を押し上げたかたちとなった。

ドル/円は独立した動きを見せ、欧州時間入り後に特段の材料なく強含みとなった後、米小売売上高の予想比下振れで元の水準に反落するもののすぐに反発、結果として 102 円台前半ながらどちらかという底堅さを示す展開だった。ユーロ/ドルも、米小売売上高を受けて一時 1.34 ドル台へ上昇したもののすぐに反落しており、ユーロの上値の重さを示す動きとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	-0.02	-0.02	+0.00	-0.03	-0.03	+0.00	+0.7	+0.3	+0.2	+0.9
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	-0.0	+0.02	-0.00	-0.02	+0.00	-0.03	-0.03	+0.8	+0.7	+0.9	+0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.7	-0.07	-0.09	-0.02	-0.01	-0.04	-0.03	+0.4	+0.7		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.4	+0.04	+0.02	-0.02	+0.06	+0.03	-0.03	+0.7	+0.1	-0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.3	+0.02	-0.00	-0.02	+0.04	+0.00	-0.03	+0.7	+0.1	-0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.1	-0.00	-0.02	-0.02	+0.01	-0.03	-0.04	+0.7	+0.2	-0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：米国の川上物価に注目

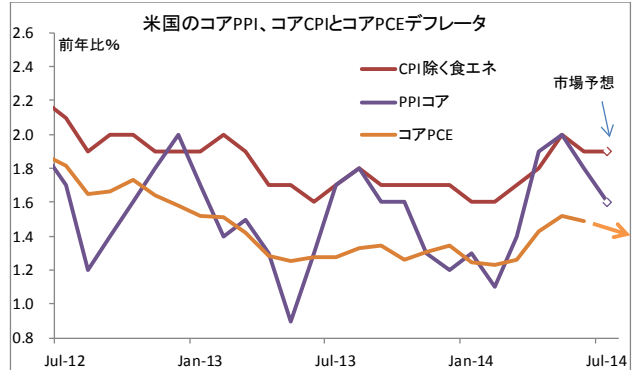
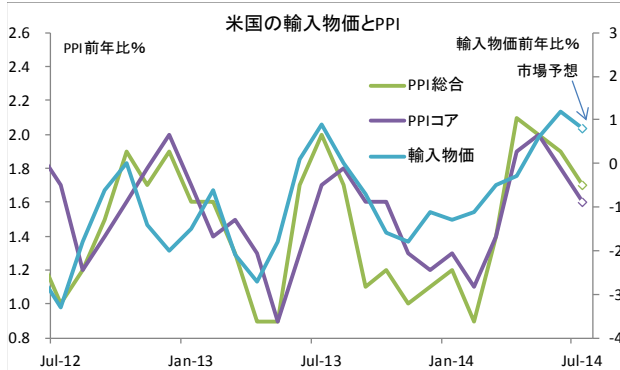
きょうの注目通貨：EUR↓、USD/JPY↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
NZ2Q 小売売上高・前期比	7:45	+0.7%	+1.0%	
英7月 RICS 住宅価格サーベイ	8:01	53	51	
本邦6月機械受注・前月比	8:50	-19.5%	+15.3%	
フランス2QGDP・前期比	14:30	0.0%	+0.1%	
ドイツ2QGDP・前期比	15:00	+0.8%	-0.1%	
ユーロ圏2QGDP 速報値・前期比	18:00	+0.2%	+0.1%	
カナダ6月新築住宅価格・前月比	21:30	+0.1%	+0.2%	
米新規失業保険申請件数	21:30	28.9万件	29.5万件	
米7月輸入物価・前年比	21:30	+1.2%	+0.8%	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

ユーロについてはユーロ圏2QGDPが注目で、既に2Q分が6日に発表されているイタリア分は前期比-0.2%と二期連続のマイナスとなり技術的リセッション入りが話題となったところだ。更に、ユーロ圏分より前に発表されるドイツ分も前期比マイナス(-0.1%)が予想されており、ユーロ圏分も予想比下振れしマイナス成長に陥るようだと、ユーロ安トレンドが強化されるだろう。

米国では、前週に減少した新規失業保険申請件数は反動増が予想されているほか、輸入物価も注目される。輸入物価はPPIと並び「川上」の物価で、比較的核心PPI(15日発表)やコアCPI(19日発表)ひいてはFedが最も重視しているコアPCE(29日発表)と連動性が高く(下図を参照)、物価関連指標の中では最初に発表されることから、今後の利上げ開始時期を巡る議論の中でインフレ率の持ち直しペースの重要度の高まりと共に注目度が高まっていくとみられる。こうした中、輸入物価は前年比伸び率の鈍化が予想されており、明日発表のPPI鈍化予想を確認するものとなり、コアCPIやコアPCEデフレーターも下振れバイアスがかかることになるため、ドル安要因となるだろう。ドル/円はレンジだが、再び102円丁度方向への軟化もあるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商)第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641